

岩手県感染症週報

令和元年第20週(5月13日～5月19日)

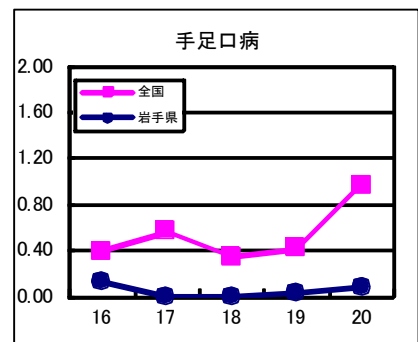
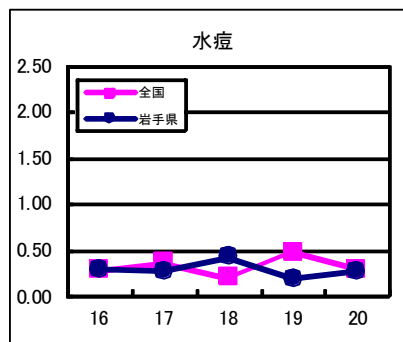
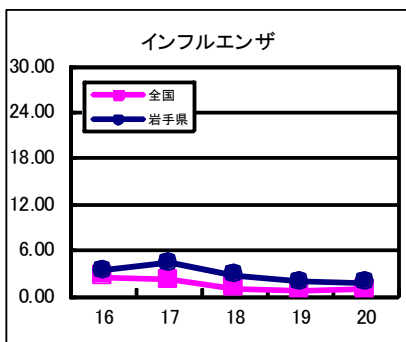
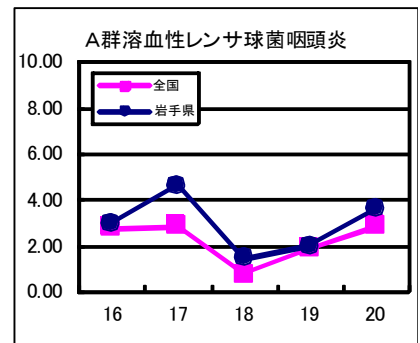
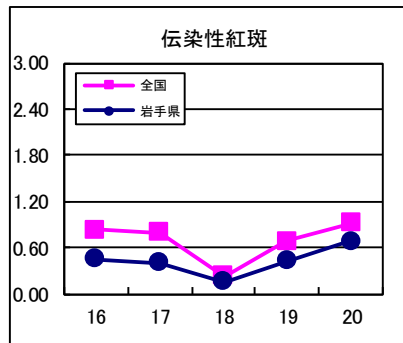
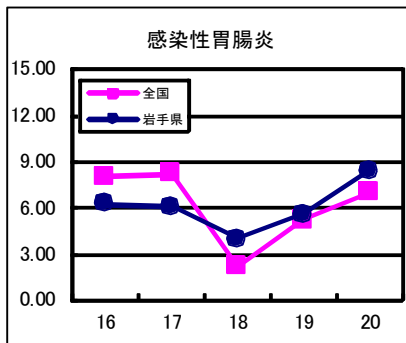
岩手県感染症情報センター

第20週の概要

- 1 類感染症 ・ 患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・ 結核の報告が4例ありました。このうち2例は潜在性結核でした。
- 3 類感染症 ・ 患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・ 患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が一関地区から1例ありました。患者は60歳代の男性です。
 - ・ 梅毒の報告が盛岡市及び一関地区から1例ずつありました。患者はそれぞれ、30歳代の男性と20歳代の女性です。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・ 感染性胃腸炎は、ノロウイルス等による集団感染事例が保育所で8件発生し、昨年と同時期と比較して多くなっています。ノロウイルスは感染力が強く、集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が必要です。調理前や食事前、トイレの後には石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便は使い捨て手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤で処理することが重要です。
 - ・ 伝染性紅斑(リンゴ病)は、二戸地区で警報値(定点あたり患者数2人)を超えました。本疾患は、小児を中心に流行する発疹性疾患です。両頬に境界明瞭な紅斑が、四肢にはレース状の紅斑が現れます。春から初夏にかけて流行するので注意が必要です。
 - ・ 溶連菌咽頭炎は、前週より増加しました。本疾患は、発熱や全身倦怠感、咽頭痛を主症状とする細菌感染症です。予防には、手洗いとうがいの励行、患者との濃厚接触を避けることが重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		16	17	18	19	20		
インフルエンザ	岩手県	3.37	4.32	2.77	1.89	1.77	→	☆
	全国	2.54	2.17	1.02	0.74	0.92		
RSウイルス感染症	岩手県	0.35	0.13	0.20	0.15	0.25	→	☆
	全国	0.58	0.56	0.24	0.25	0.27		
咽頭結膜熱	岩手県	0.45	0.38	0.05	0.15	0.25	→	☆
	全国	0.39	0.48	0.20	0.49	0.42		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.00	4.63	1.45	2.00	3.58	↗	☆
	全国	2.76	2.86	0.77	1.89	2.86		
感染性胃腸炎	岩手県	6.23	6.08	4.00	5.58	8.43	↗	☆
	全国	8.02	8.20	2.20	5.23	7.00		
水痘	岩手県	0.30	0.28	0.43	0.20	0.28	→	☆
	全国	0.29	0.37	0.21	0.48	0.30		
手足口病	岩手県	0.13	0.00	0.00	0.03	0.08	→	
	全国	0.39	0.56	0.34	0.41	0.96		
伝染性紅斑	岩手県	0.45	0.40	0.15	0.43	0.68	↗	☆☆
	全国	0.83	0.79	0.23	0.68	0.91		
突発性発疹	岩手県	0.53	0.53	0.28	0.43	0.45	→	☆
	全国	0.50	0.55	0.19	0.45	0.47		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.03	0.00	0.00	0.00	0.03	→	
	全国	0.07	0.08	0.05	0.09	0.19		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.10	0.05	0.05	0.18	0.13	→	☆
	全国	0.09	0.10	0.05	0.10	0.10		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.00	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.79	0.71	0.36	1.14	0.64	↘	☆
	全国	0.64	0.63	0.23	0.70	0.60		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.05	0.00	0.11	0.00	→	
	全国	0.02	0.03	0.01	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.02	0.01	0.01	0.02		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.21	0.00	0.11	0.11	0.05	→	
	全国	0.15	0.10	0.13	0.10	0.13		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	2.32	1.74	0.79	0.79	0.68	↘	☆
	全国	0.97	0.93	0.59	0.55	0.60		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	6	12	10	4	2		
	全国	179	157	105	57	56		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		16	17	18	19	20		20	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	6 (2)	5 (2)	5 (2)	2 (1)	4 (2)	80 (37)	354	7667
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	34
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	1	0	3	56	438
	腸チフス	0	0	0	0	0	1	0	13
	バラチフス	0	0	0	0	0	0	0	10
	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	5	183
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	1	0	0	0	0	4	11	179
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	4
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	10
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	4	22
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	3	51
	デング熱	0	0	0	0	0	1	7	116
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	2	27
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	14	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	1	1	1	0	6	26	513	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	3	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 16	17	18	19	20	累計 20	累計	
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	9	329
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	3	111
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	1	25	682
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	23
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	1	0	1	0	0	6	5	409
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	1	57
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	1	1	4	10	352
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	7	410
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	4	17
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	8	245
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	20
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	2	0	8	68	1577
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	10	166
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	2
	梅毒	0	0	0	0	2	6	69	2325
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	51
	破傷風	0	0	0	0	0	0	3	32
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	30
百日咳	0	0	1	0	0	13	242	5922	
風しん	0	0	0	0	0	1	55	1565	
麻しん	0	0	0	0	0	1	32	533	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	13	

今注目の感染症

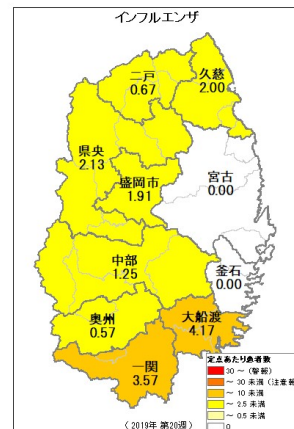
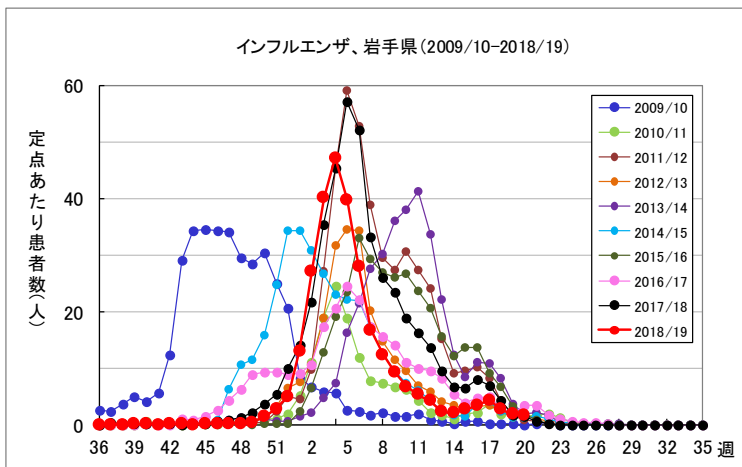
インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられます。潜伏期間は1日～3日程で、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。

岩手県では、例年、11月下旬から12月上旬頃に発生が始まり、1月から3月頃に患者数が増加します。今シーズンは第50週に定点あたり患者数が1.45人となり、流行開始の目安である1.0人を上回りました。その後増加が続き、第3週には定点あたり患者数が40.03人となり、警報値である30人を超え本格的な流行状態に入りました。第4週には定点あたり患者数が47.11人とピークとなり、第5週以降減少が続いています。一度かかった方が、その後、別の型にかかることもあるので引き続き注意が必要です。

主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスクの着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が重要です。また、症状がある場合には早めに医療機関を受診することが勧められます。

参考 インフルエンザとは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>



※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)」を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

岩手県 第20週

今注目の感染症 (つづき)

風しん

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる、発熱、発疹、リンパ節の腫脹を特徴とする急性の発疹性感染症です。風しんウイルスは、患者の飛沫(唾液のしぶき)などによりヒトからヒトへ感染します。潜伏期間は2週間程度で、発疹が出る前後1週間位がヒトへの感染力があるとされています。風しんに免疫を持たない妊婦の方が妊娠第20週頃までに感染すると、「先天性風しん症候群」という目や心臓、耳などに障害を持つ子供が生まれる可能性があり、妊婦への感染を防止することが重要です。

全国では、2018年第30週以降、関東地方で報告数が大幅に増加し、2018年の累積報告数は2,917人と、全国流行があった2013年(14,344人)に次いで2番目に多い報告数となりました。2019年は第19週までに1,486人が報告されています。男女別にみますと、男性の報告数(1,186人)が女性の報告数(300人)の約4.0倍となっており、今回の流行は、風しんの抗体を保有していない30~50代の男性で感染が拡大しているとみられます。

岩手県では、全数把握疾患となった2008年以降、2019年第20週までに23人報告されています。全国流行があった2013年には9人の報告がありました。

予防にはワクチン接種が最も効果的です。2回の定期予防接種(1歳児と小学校入学前1年間)を徹底しましょう。また、2021年度末までの期間に限り、これまで風しんの定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性(現在39~56歳)が定期予防接種の対象者として追加されました。また、妊婦への感染を防止するため、予防接種歴や抗体陽性が確認できない「妊婦の夫、子どもや同居家族」、「妊娠希望者や妊娠の可能性が高い女性」の方は、任意で予防接種を受けることが推奨されます。

【参考】風疹とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html>

風疹流行に関する緊急情報: 2019年5月15日現在(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/2019/rubella190515.pdf>

風しんの追加的対策について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

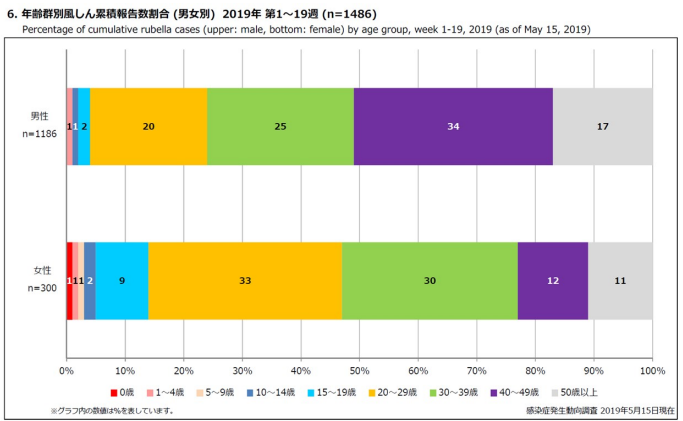
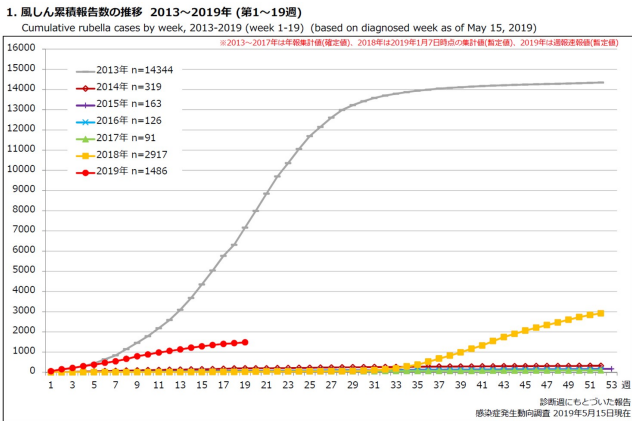


図1 全国における風しん累積報告数の推移 (2013~2019年第19週) (国立感染症研究所HPより)

図2 全国における年齢別、男女別風しん累積報告数 (2019年第1~19週) (国立感染症研究所HPより)

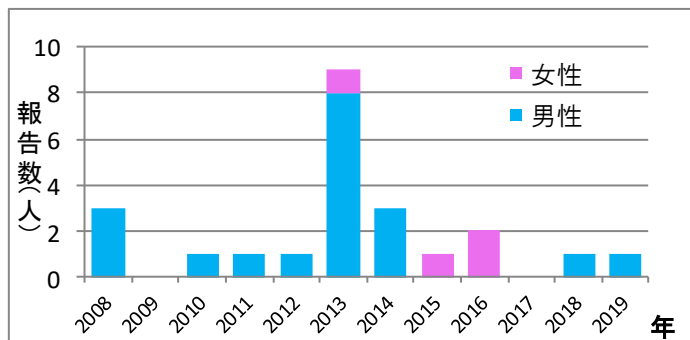


図3 岩手県における年別・性別風しん報告数 (2008~2019年第20週)

今注目の感染症 (つづき)

麻疹

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症するといわれています。

症状としては、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。また、ヒトの体内に入った麻疹ウイルスは一時的に免疫機能を抑制するため肺炎や中耳炎などの合併症をおこしやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症するといわれています。

全国では、2008年に10～20歳を中心に流行し、11,013例の報告がありました。2009年以降は35～732例で推移しています。2018年の累積報告数は282例でした。2019年は、第2週以降急増しており、第19週までに486例が報告されています。

岩手県では2012年第12週以降届出がありませんでしたが、2019年第4週に1例報告がありました。2008年に全数把握疾患に変更になってから、2019年第20週までに23例が報告されています。

予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、1歳児と小学校入学前1年間の幼児の2回です。自分が感染しないためだけでなく、周囲の人に感染させないためにも予防接種を受けることが勧められます。また、海外では、麻疹が多く発生している地域がいまだに多くあります。海外旅行を予定されている方は、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じてワクチン接種を行うことが推奨されます。帰国後は麻疹を発症する可能性も考慮して、2週間程度は健康状態に注意することも重要です。

また、麻疹を疑う症状があり、医療機関を受診する場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に連絡してから受診することが重要です。

【参考】

麻疹について (厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

麻疹とは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

IDWR 2019年第10号 注目すべき感染症 麻疹 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/measles-m/measles-idwrc.html>

1. 麻疹累積報告数の推移 2013～2019年 (第1～19週)

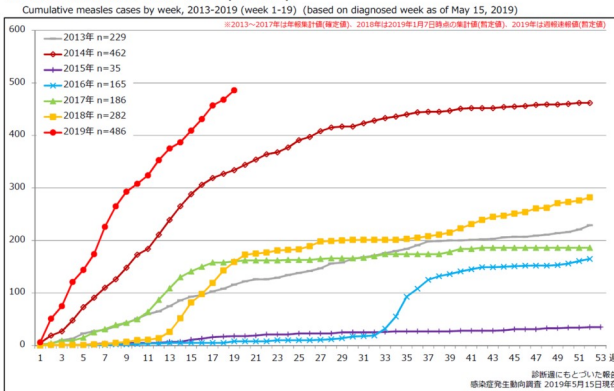


図1 全国における麻疹累積報告数の推移 (2013～2019年第19週) (国立感染症研究所HP)

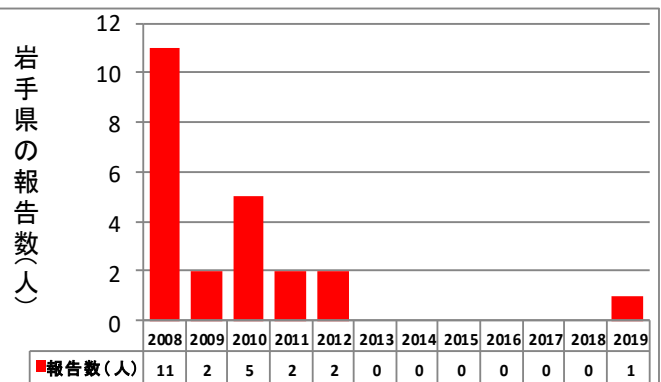


図2 岩手県における年別麻疹報告数 (2008～2019年第20週)

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・山田町内の保育所（園児73名、職員19名）
4月24日（水）から5月14日（火）にかけて、園児18名、職員6名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者2名からノロウイルスを検出
- ・北上市内の保育所（園児71名、職員20名）
5月13日（月）から5月17日（金）にかけて、園児18名、職員2名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者2名からノロウイルスを検出
- ・金ケ崎町内の保育所（園児107名、職員26名）
5月8日（水）から5月16日（木）にかけて、園児16名に症状（嘔吐、下痢、発熱等）
有症者4名からロタウイルスを検出
- ・金ケ崎町内の保育所（園児123名、職員35名）
5月8日（水）から5月17日（金）にかけて、園児74名、職員1名に症状（嘔吐、下痢、発熱等）
有症者7名からノロウイルスを検出
- ・一関市内の保育所（園児98名、職員23名）
5月10日（金）から5月16日（木）にかけて、園児30名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者4名からロタウイルスを検出
- ・田野畑村内の保育所（園児57名、職員20名）
5月14日（火）から5月17日（金）にかけて、園児24名、職員5名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者5名からノロウイルスを検出
- ・一関市内の保育所（園児42名、職員17名）
5月10日（金）から5月16日（木）にかけて、園児11名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者3名からノロウイルスを検出
- ・盛岡市内の保育園（園児136名、職員39名）
5月7日（火）から5月21日（火）にかけて、園児13名、職員1名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者6名からノロウイルスを検出

○インフルエンザによる学校等の休業措置について

- ・岩手県 7件
- ・盛岡市 1件

病原体検出情報

- ・インフルエンザの患者の咽頭ぬぐい液から、インフルエンザウイルスAH1pdmを2件、インフルエンザウイルスAH3を6件、それぞれ検出しました。
- ・RSウイルス感染症の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・溶連菌咽頭炎の患者の咽頭ぬぐい液から、A群溶血性レンサ球菌（T-25）を2件、A群溶血性レンサ球菌（T-14/49）を1件、それぞれ検出しました。
- ・アデノウイルス感染症の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス2型を1件検出しました。
- ・伝染性紅斑の患者の咽頭ぬぐい液から、パルボウイルス（B19）を5件検出しました。
- ・リンパ節炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・手足口病の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・不明発疹症の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス2型を1件検出しました。
- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件、インフルエンザウイルスAH3（香港型）を1件、それぞれ検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件、ヒトヘルペスウイルス6型を1件、それぞれ検出しました。

医療機関からの情報

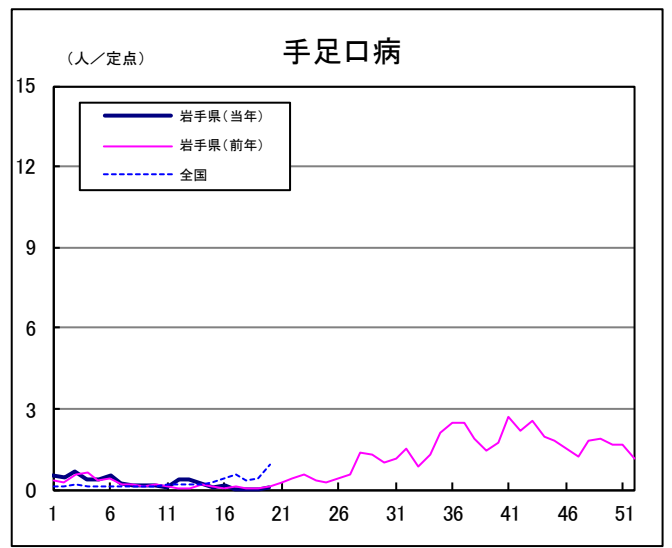
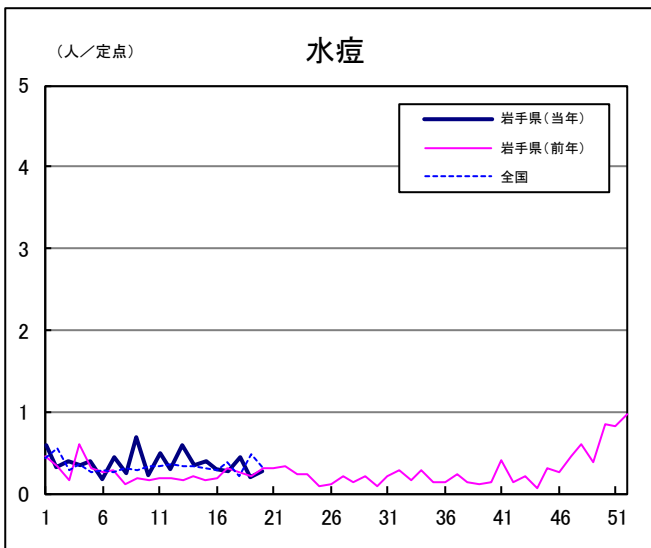
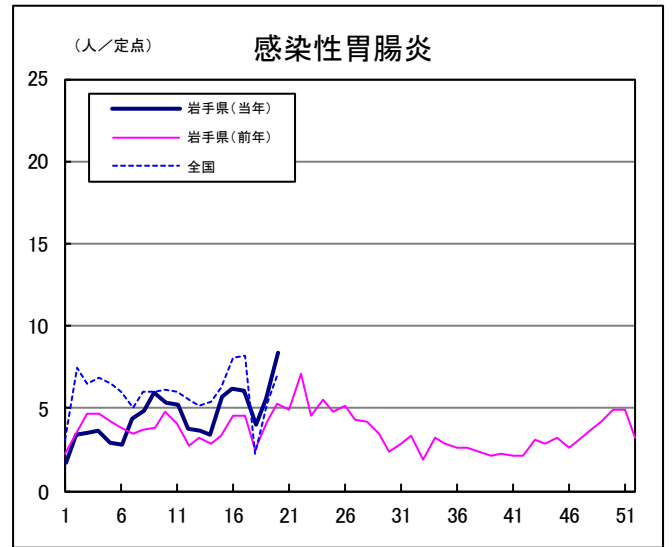
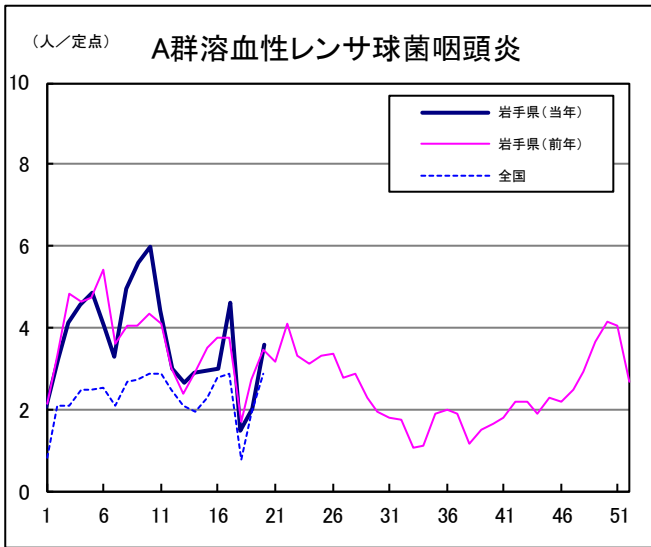
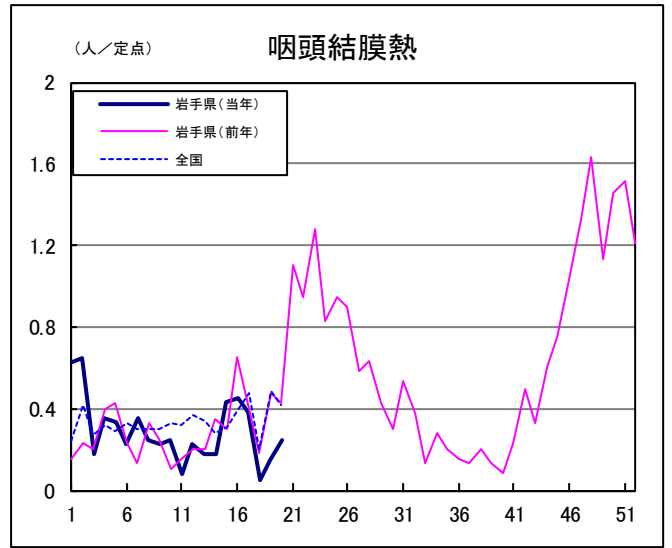
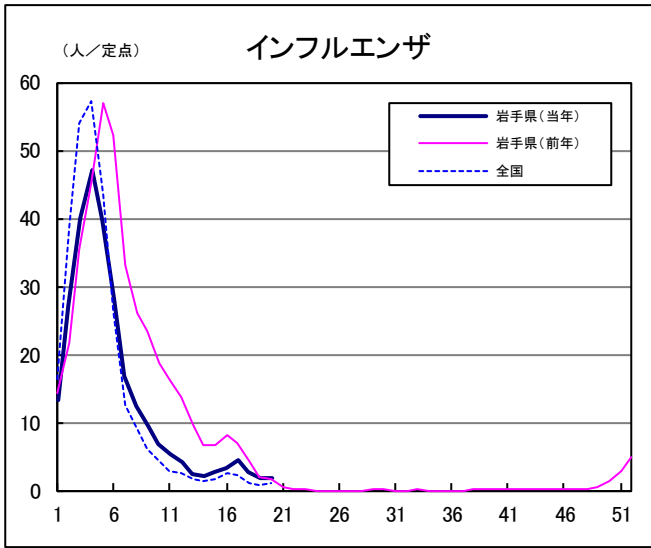
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

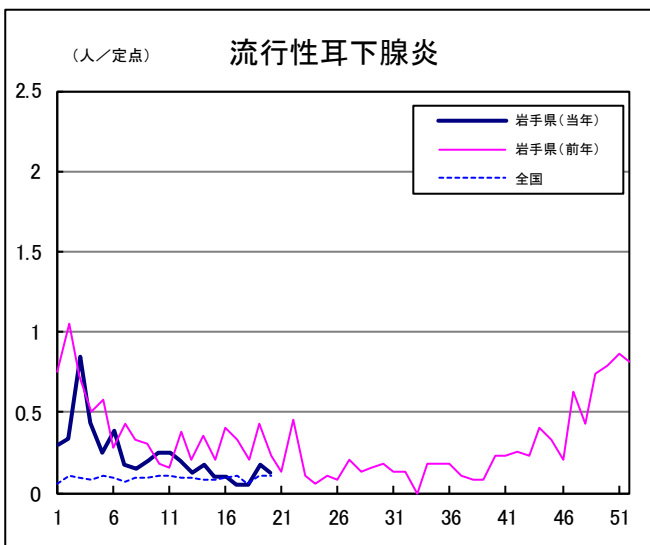
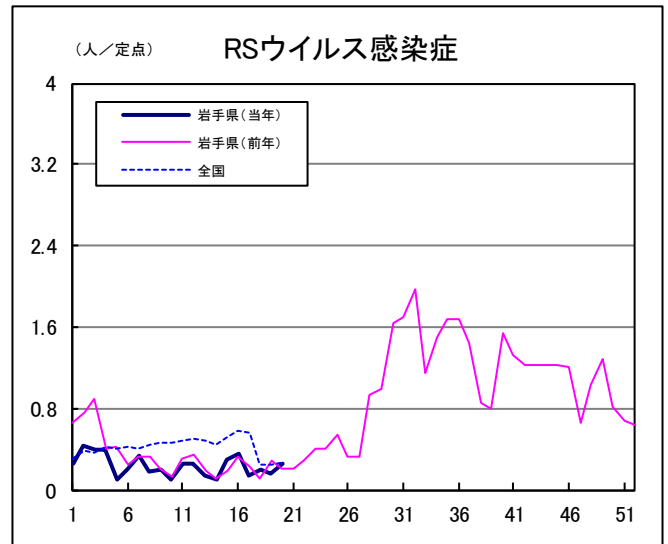
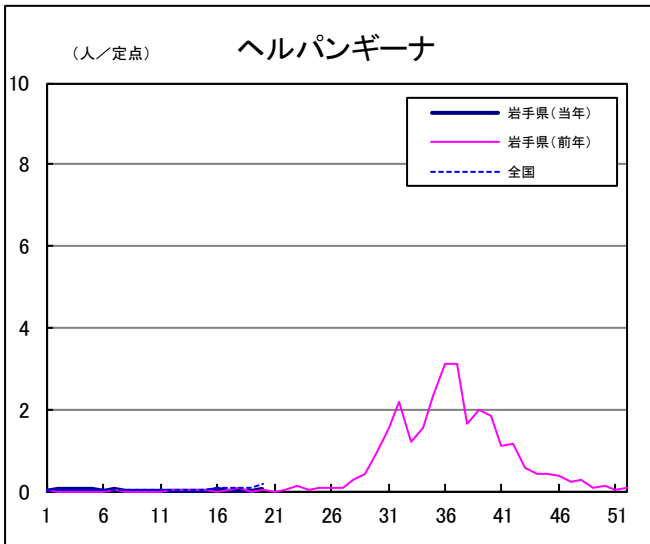
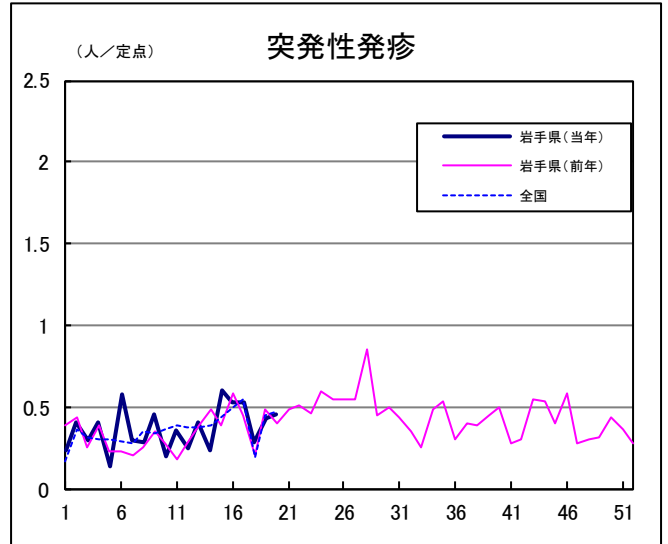
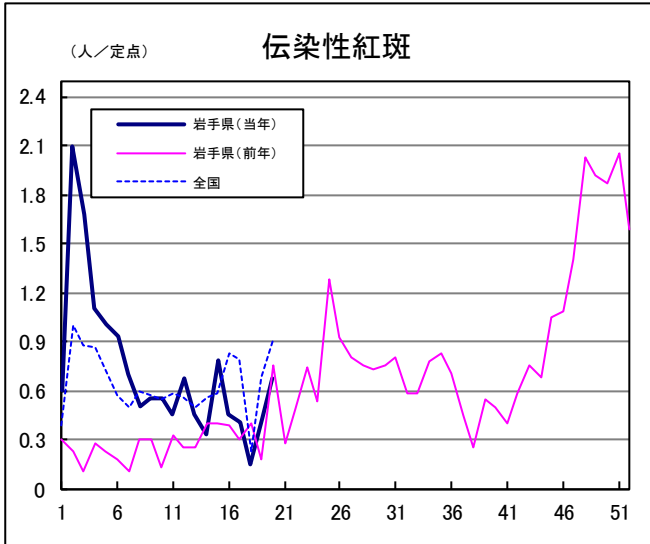
Q & A

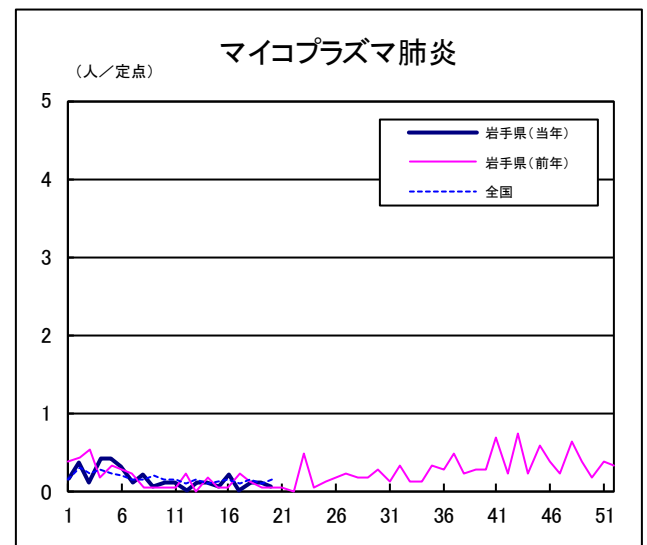
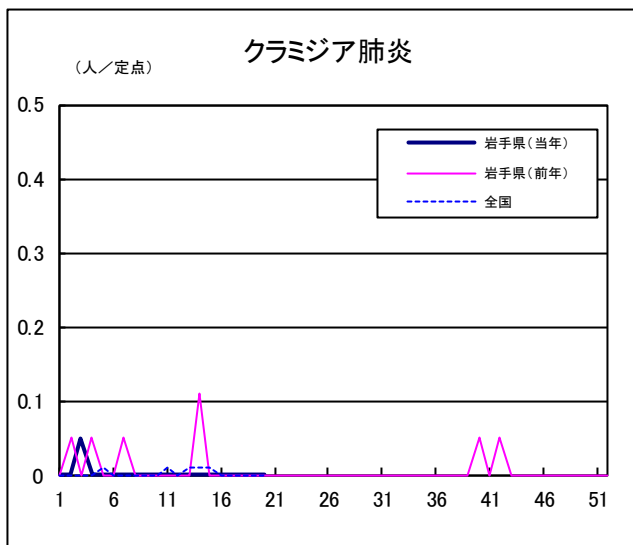
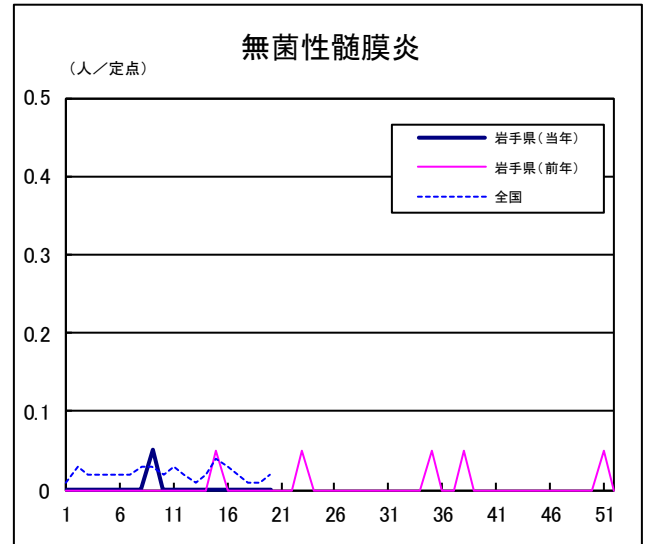
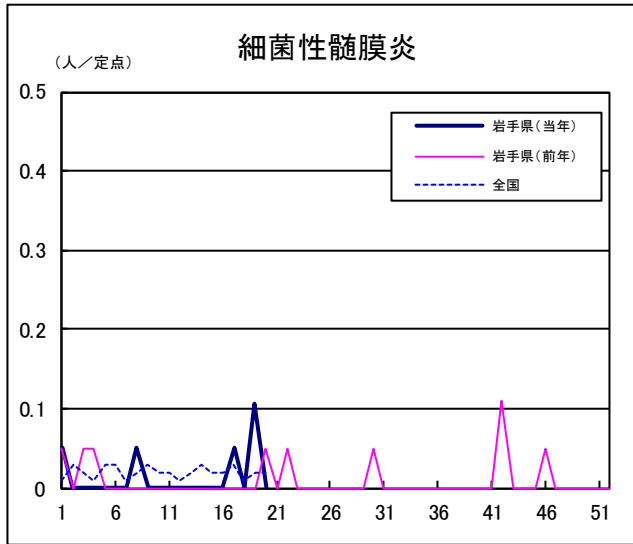
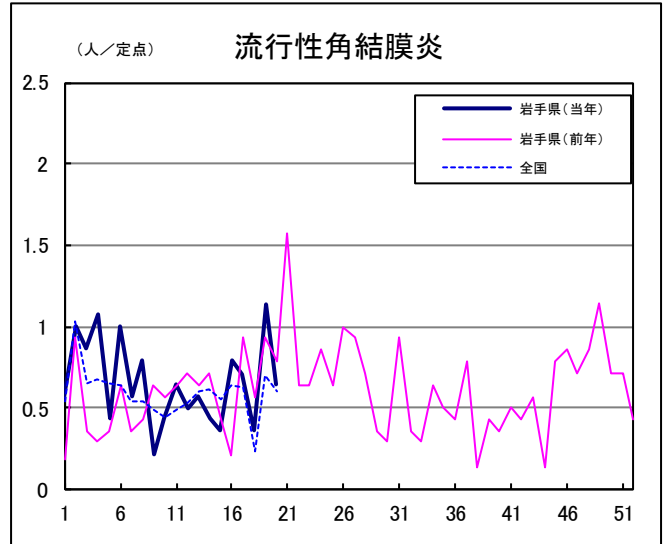
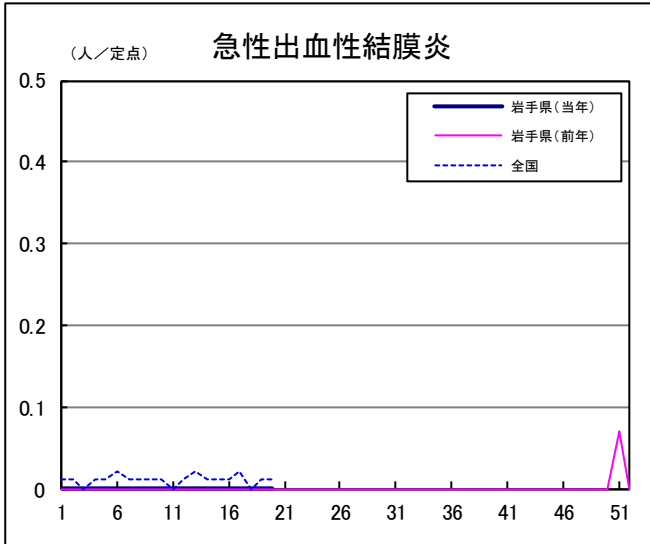
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref. iwate. jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和元年第20週 令和元年5月24日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>